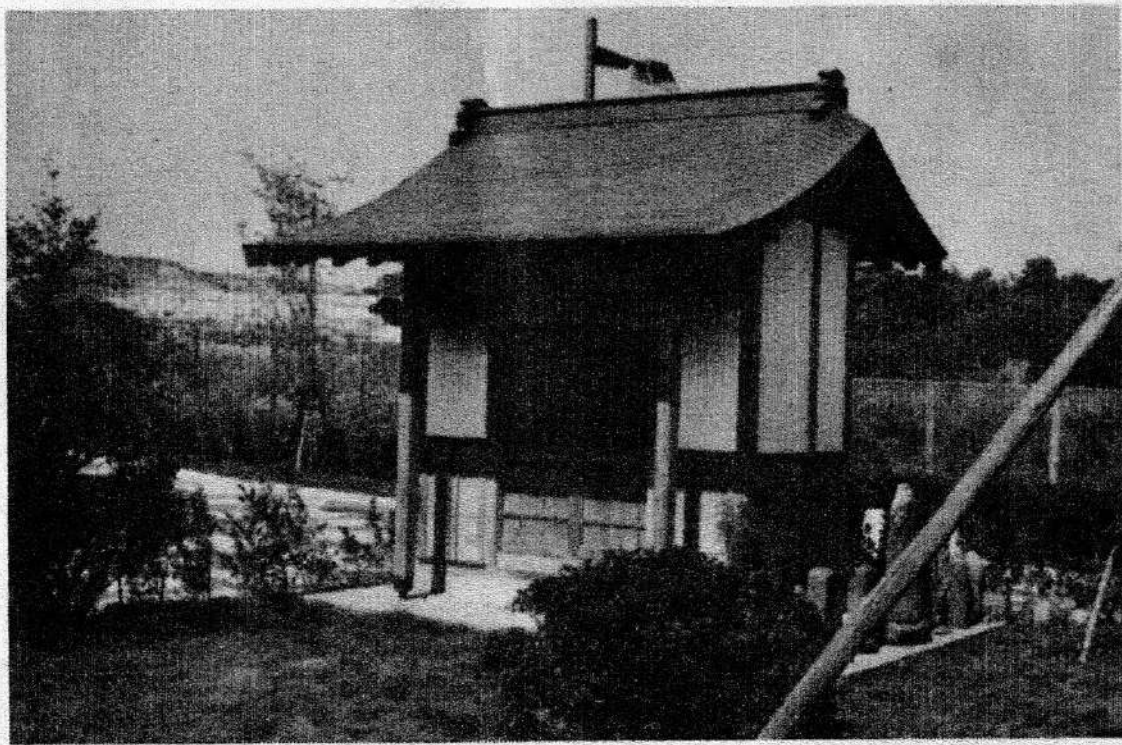
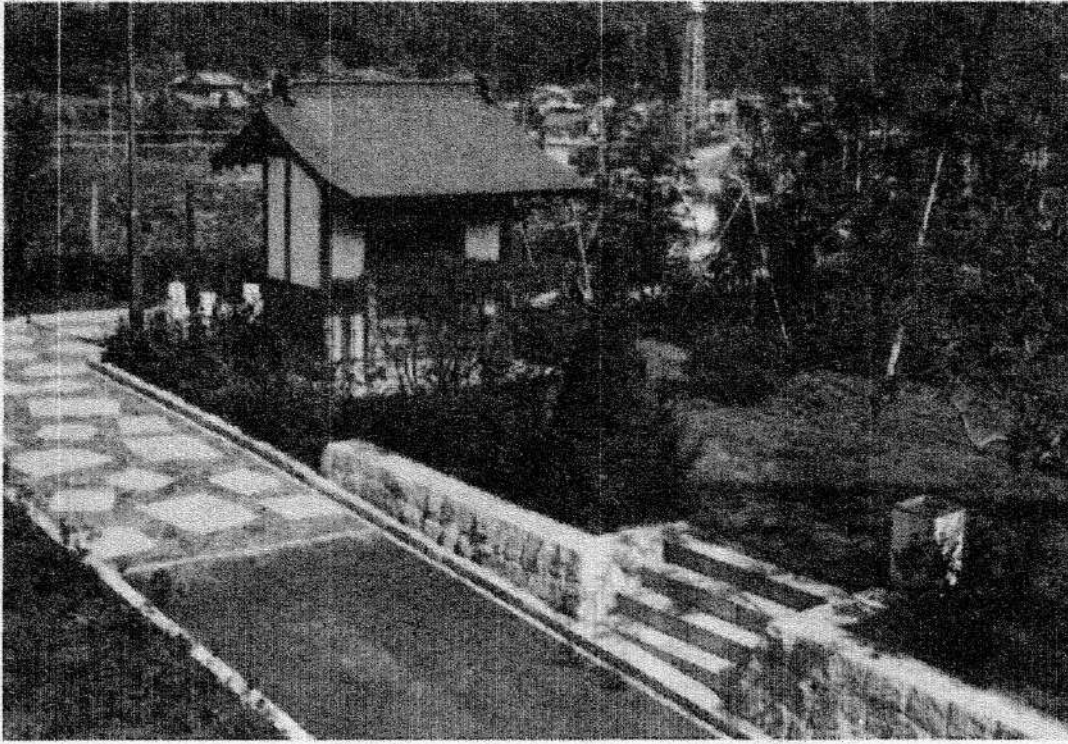


「お薬師様」と
「半僧坊様」の
おはなし



「お薬師様」と「半僧坊様」のおはなし



—— 南大沢薬師全景 ——

◇ お薬師さまとはどんな仏様？

薬師様の正しいお名前は「東方薬師瑠璃光如来」と申しまして、観音様や地藏様と同じように、仏様のお慈悲をもって、この世の生きとし生けるすべてのもの（衆生）の苦悩を除き、幸せを施される仏様です。

仏様には如来とか菩薩とかがありますが、如来様（例えば薬師如来とか阿弥陀如来とか）の地位に到達するまえに、菩薩様（例えば観世音菩薩とか文殊菩薩とか）という地位の時代があります。

薬師様にも当然菩薩様の時代がありました、その時代に薬師様は「世の中の病苦の衆生・我が名を呼びて救いを求める時、その声、我が耳に達せば、ただちにはせ参じて病苦を除かむ」と誓願されました。

誓願とは「神かけて」とか「神仏に誓って」とかいう意味の願かけで、如来位に到達するた

めの修行の道でありますから、成就しないときは死も甘受するという、文字通り命懸けの誓いです。

そして誓願の実践につとめられ、遂に如来位に到達された方ですから、如来様になられた現在でも、その実践は続けられ、昼夜を分たず、仏の偉力をもって病苦の救済に当られています。このことは、薬師如来本願功德経というお経に詳しく書いてありますので、説明は省略しますが、お薬師様のお像をみますと、左手には殆んど薬壺やくこを持っておられます。

仏様から見た衆生の病苦には色々なものがあります。

身体からだの病氣、医師の手を煩わす病氣は勿論病氣ですが、そのほかに、心の病氣・社会の病氣・悩み・災いなど、これらはすべて病苦です。

仏教では「生老病死しやうろうびやうし」を四苦と申しまして、人間の「苦」の基本的なもの、自力ではどうにもならない「苦」としてあります。これが四苦八苦のうちうちの四苦です。

これらの苦痛から、衆生を救済し、心身の健

康を守ることが薬師様の誓願であります。

ですから薬師様は、昔からお医者様にも不便な、地の利の悪い山の中などに多く祀られて村人の信仰を得ていました。

その例として、ここ南大沢の薬師様・別所の薬師様・町田市小野路の薬師様・薬師池の薬師様・遠くは島根県出雲市に近い一畑薬師様などがあります。

このように田舎の薬師様が有名なのは、それだけ多くの昔の村人達が、薬師様に救いを求めそれによく応対おこたえされた薬師様の功德くどくの大きいことによるのではないのでしょうか。

☒ 半僧坊大権現とはどんな仏様？

昔、日本では文化のすすんだ中国に、多くの学生がくせいや学僧を派遣して勉強させました。

昔のことですから渡航の船も、鋼鉄船やエンジン付きの船があったわけではありません。小さな木造船の櫓を漕ぎ、九州から波浪なみ高い東支那海を、なん日もかかって往復したものでした。したがって、夏から秋にかけては南からの台

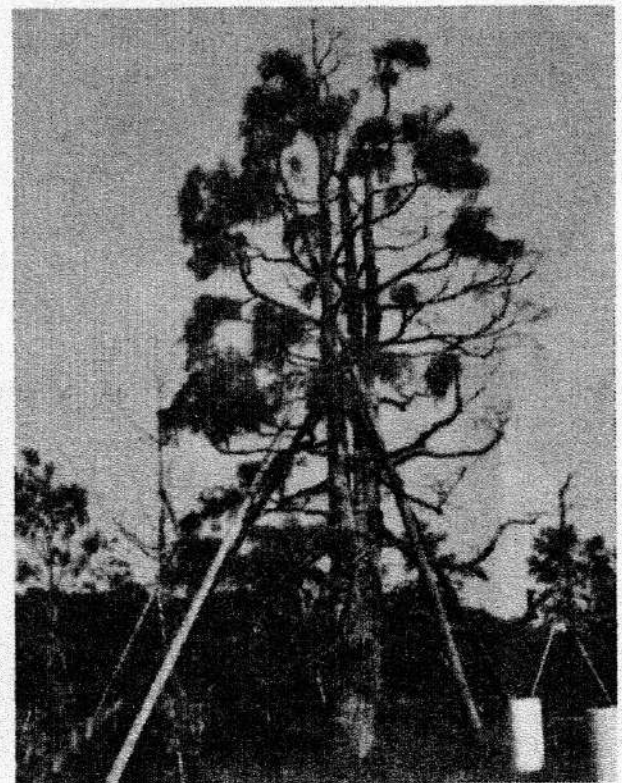
風に相遇したり、冬から春にかけては北からの大時化に逢ったりして、船は度々難破し、またおおぜいの船客が死亡したり、命懸けの旅でした。

時代は、中国が元と呼ばれていた頃の話です。中国での留学を終り、帰国の途についた臨済宗の学僧元選が、中国の港を船出して東支那海にさしかかりますと、はからずも大暴風におそわれました。

船は大きく揺れ、今にも転覆しそうになり、船客も水夫も大騒ぎになりましたが、その時どこからか僧のような天狗のような、異様な風体の人があらわれて、「我が指示に従い、安心して船をすすむべし、無事本邦に到着せむ」と舳先に立って水先きの案内をしました。

やがて暴風も治まった時、東のかなたに日本の土地が見え、船は無事日本に到着することができたということでした。

九州に上陸した僧元選は、その後、二十余年間教化の旅をされていましたが、三河奥山の領主奥山六郎次朝藤に懇請されて奥山にのぼられ



—— 御神木のイトヒバも昔の場所から移植された ——

ました。すると彼の異様な風体をした人が門前に出迎え、弟子に加えて欲しいと申し出ました。元選和尚は「汝は半ば僧に似て僧に非ず。汝には半僧坊の名を授与せん」と申され、以後自他ともに半僧坊というようになりました。

元選禪師が遷化された後、程なくこの半僧坊は「吾れはこれより禪師にかわって一切衆生を済度し、一切の苦難を救助せん」と誓って山の奥に姿を消されました。

いつの間にか、これは元選禪師があまりにも



— 薬師堂周辺の散歩道 —

高德であつたため、神様仏様が半僧坊の姿を権りて禅師を守護されたものであろうと言われるようになり、半僧坊大権現を方広寺の守護神としておまつりするようになりました。

元選禅師は無文元選禅師と稱され、このお寺つまり深奥山方広寺の開山とあがめられた方であり、なお方広寺は現在、臨済宗方向寺派の大本山として栄えております。

☒ 権現様は仏様？

権現様という言葉は、よく耳にする言葉です。近くは鑓水の権現様、小田原市では道了薩埵大権現、三河では秋葉大権現、加賀白山大権現、そして半僧坊大権現など、誰でも知っている権現様ですが、その意味は「権」とは「かり」ということで、本地の仏様が、人や世を救うため権に出現されるということです。権の姿で出現するということです。

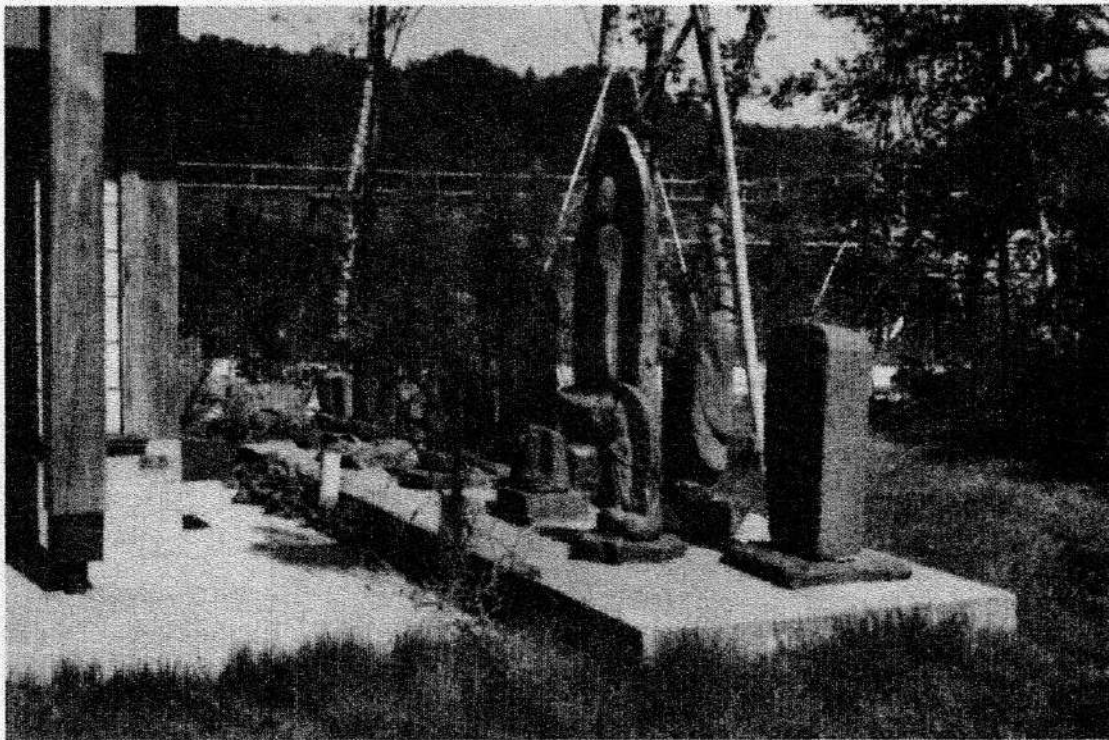
本地が仏様か神様かということについては、本地垂迹説というものがあり、意見が分かれま

は、ここでは結論しませんが、とにかく大偉神力をもったものが、権かりの姿をもってこの世に現われ、人や世の中を救い守るものであるという程度にご理解いただきしたいと思います。

☒ 薬師様や半僧坊様のご利益は？

さきにも概略述べましたように、薬師様は菩薩時代の大誓願によって、今日でも衆生を病氣から救いつづけてくださる仏様です。換言すれば健康を守ってくださいる仏様です。また半僧坊様は菩薩様（元選禪師）を守護され、また道案内をしてくださる仏様ですから、この両仏を篤く信仰し、ひたすら拝みおすがりすることによって、日常の私達の心身の健康を守り、また日常生活での安全を守り、更に人生の行方を指導案内しながら、社会の危険などから守ってくださいます。

私達の日常生活には、健康と誤あやまりのない行動が何よりの宝物たからものですが、これを示し、導き、そして救ってくださいるのが薬師様と半僧坊様です。



—— 集められた野仏の群 ——

☒ 南大沢の薬師様と半僧坊様は？

南大沢の薬師様は御身丈約五十八センチメートルの一本造りで、一説によれば鎌倉時代の作ともいわれる、たいへん古く靈驗あらたかな仏様です。仏様はご自分のことは何も語られませんが、ながい歴史のなかで、いつの間にか御腕などが失くなり、残念ながら現在完全なお姿をとどめておりません。

また、半僧坊様は、明治二十二年に、後醍醐天皇五百回大遠忌（五百年目の法事）に因み、田倉富次郎さんが世話人になって寄附をつのり堂宇を建立して、方広寺から勧請（お迎え）奉祀したものです。

薬師様も半僧坊様も、最初は南大沢の東光寺というお寺に祀られていたものと思われませんが東光寺が廃寺になってから後は、田倉さんが自宅の傍に土地を提供してそこにおまつりしたようです。

大正六年には青年会が主催して寄附を集め、堂宇の建て替えをした記録がありますが、その後は大震災、昭和の大不況、引続いての戦争な

どで、いつの間にか昔の記憶はうすらぎ、堂宇も朽ちてきましたが、田倉さんがひとりで仏様を守ってこられたといわれています。

今回ニュータウン建設事業にともない、多くの方々のご協力を得て現在地に新しく堂宇を建立し、昔からの由緒ある薬師如来と半僧坊大権理を奉祀し、あたり一帯を緑ゆたかな公園として整備いたしました。こども、これからひらけゆく南大沢の小さなオアシスとして、住民のいこいの場所になることでしょう。

なお、明治時代に勧請した半僧坊様は、ご本体がはつきりしませんでしたので、昭和五十六年に改めて勧請したものです。そのご本体は卵形をした自然石で、高さ約二十五センチメートル。そして「心は卵のようにまるくなめらかに意志は石のように堅く保つ」ということを意味しているのだそうです。

昭和五十九年十月縁日

由木山蓮生寺二十一世

英彬 謹記

昭和五十九年十月八日印刷
昭和五十九年十月九日發行

八王子市南大沢 藥師堂印施

非 売 品